

【お詫び】横浜市立大学附属病院における向精神薬の紛失について

令和6年11月28日
附属病院総務課

横浜市立大学附属病院における向精神薬（ミダゾラム）の紛失について

横浜市立大学附属病院（金沢区福浦3-9）において、内視鏡センターで管理している向精神薬ミダゾラム注10mg「サンド」（以下、ミダゾラムという。）を10アンプル*紛失したことが、令和6年11月25日（月）に判明しました。継続して院内関係箇所を捜索していますが、現時点では見つかっておりません。紛失については、神奈川県薬務課に報告の上、事故届を提出しました。

医療機関として厳重な管理が義務付けられている薬品を紛失するという事態が発生し、患者様をはじめ、関係者の皆様にご心配とご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

※アンプル・・・薬液などを封入した小さなガラス製容器

1 経過

○令和6年11月22日（金）16：30頃

内視鏡センター職員が、その日使用した分のミダゾラム等を補充するため、薬剤部へ取りに行き、内視鏡センターへ納品した。なお、薬剤部から出庫の際、薬剤部職員と内視鏡センター職員により、補充量の確認を行っている。

ミダゾラムの補充量：34アンプル（10アンプル/箱を3箱、バラで4アンプル）

○令和6年11月22日（金）16：45

内視鏡センターのナースステーション内に設置されている金庫内のケースに各種薬品の補充を行うため、看護師Aが納品されたミダゾラム及びその他の薬品を同一のトレイに載せ、金庫内のケースへ補充作業を行った。

看護師Bは、ミダゾラム等が定数分補充されたことを確認し、その旨を記録簿に記載。

その後、看護師Aが金庫を施錠した。

○令和6年11月25日（月）8：45

看護師Cが金庫を開けて薬剤の数量を確認した際、引き出し内の最奥部1列（10アンプル）分のケースにミダゾラムがセットされておらず、10アンプル足りないことが発覚した。その後、内視鏡センター内及び薬剤部を捜索したが、発見には至っていない。

薬剤を保管する金庫は自動で開閉記録が残るシステムとなっており、11月22日（金）16:45から11月25日（月）8：45までの間に金庫を開錠された記録は残っていないことから、第三者による盗難の可能性は低いと考えられます。

金庫の引き出し内のケースにアンプルを補充する際には、1名がセットし、もう1名が確認するというダブルチェック体制をとっていました。しかし、引き出し最奥部の一列（1箱分・10アンプル分）のセットを失念し、さらに、ダブルチェックが十分でなかったことから、それに気が付かず、10アンプル入りの開封前の箱を、空き箱とともに廃棄した可能性が高いと考えられます。

なお、廃棄物事業者に連絡をしましたが、排出した廃棄物の特定ができず、発見には至りませんでした。

所在不明となっている当該薬品については、引き続き院内関係箇所を捜索していきます。

2 紛失した向精神薬

ミダゾラム注10mg 10アンプル

※ミダゾラムは、全身麻酔の導入及び維持、集中治療における人工呼吸中の鎮静等に用いられる第3種向精神薬。

3 原因及び再発防止策

原因として、薬剤を補充する工程や保管方法、ダブルチェックに問題があったと考えます。

- (1) 薬剤を箱から金庫に移し変える際に、中身が入った箱と補充後の空箱を同じトレイ内に配置して作業していた。また、箱を捨てる際に、空箱を破くなどの確認を行っていなかったため、中身が入った箱と空箱の見分けがつけられなかった。
- (2) ダブルチェックとして、金庫内に薬剤をセットした後に、定数（ミダゾラムは40アンプル）がセットされていることを確認していたものの、チェックが不十分であった。

今後の再発防止に向けて以下の策を講じます。

- ・同一トレイ内に中身が入った薬剤の箱と空箱を置かないようにする
- ・箱から薬剤を取り出し次第、すぐに空箱を破き、中身がないことを確認する
- ・金庫内の仕切りケースに色付けし、定数が補充されているか否かの視認性を高める
- ・ダブルチェックの際は、金庫内のケースに補充された数の確認を確実に行う

また、薬剤の定数配置や管理方法について継続的に検討を行い、厳格な薬剤管理に努めてまいります。

5 横浜市立大学附属病院 遠藤 格（えんどう いたる）病院長のコメント

この度は、当院の向精神薬の管理が徹底出来ておらず、皆様にご心配、ご迷惑をおかけしてしまい、誠に申し訳ございませんでした。今後、原因の分析と再発防止策の徹底に誠心誠意努力して参ります。